



カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかにずちの子
<http://www.machida-catholic.jp/>



神の母聖マリア

罪深い私たちのために
祈って下さい

わたしの歩み、わたしの召命

グアダルペ宣教会助祭 メヒア・タデオ・ラファエル



グアダルペ宣教会のラファエル助祭です。宣教会に入ってからもう15年、来日してから6年になります。さらに今年の3月7日、千葉寺教会にて助祭叙階の恵みを頂きました。初めて司祭になりたいと

感じたのは8歳の頃でした。なぜだか分かりませんが、小学校、中学校、高校を通じてずっとそういう気持ちがありました。また教区の司祭ではなく、外国に行つて、福音宣教する司祭になりたいという夢がありました。確か最初のアフリカの方で宣教したいという思いがありました。しかし、時間が経つて、哲学と神学の勉強と共に自分の召命の理解も成長していきま

した。特に、修練期を終わつた頃「いい宣教師であれば、どこの国に行つてもちゃんと福音宣教をやるでしょう」との聖霊の導きがありました。ですから、これからどこの国に派遣されても、神の国、また福音宣教のために命をかけても頑張るしかありません。ちょうどその時、グアダルペ宣教会日本管区に神学生がいなかったため、日本に行くことを総長に願い出ました。神様がグアダルペ宣教会を通して日本に連れてきてくれたのです。

日本に来てから、色々なことがありましたが、神様の助けと導きによって、宣教師として歩んできました。助祭叙階の前に、ある信者から「もし神父になったら、どんな司祭になりたいですか」と尋ねられました。その時、何と答えたか覚えていませんが、その後その質問は心の中に響いて、色々なことを考えさせられました。黙想をしながら、聖パウロのローマの教会への手紙の一節「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」を読んで、ようやくその答えが見つかりました。イエスの福音、希望、信頼、平和のメッセージを述べ告げ、どんなことがあっても、どんな人でも、一緒に信仰の道を歩んでいく司祭になりたいと感じました。

では、「どんな人でも歩んでいく司祭」とはどのようなことをあらわしているのでしょうか。イエスが地上で行われた神のミッションを見ると、答えが分かるように思います。皆様をご存知の通り、イエス様の中心的なメッセージは、「悔い改めよ。天の国が近づいた」ということでした。イエスは天の国について説教し、証し、仕えることに全力を傾けました。社会の周縁に置かれた人々や女性と関わり、罪人や徴税人と食事を共にすることを通して、だれをも排除しない神の国を証しました。神の国は、神の子らを神とお互いの新しい関係へと招きました。すなわち、イエスが来たのは仕えられるためではなく、仕えるためでした。特に貧しい人々のために。

最近、教皇フランシスコはイエス様のように今の社会で弱い立場に置かれている人々、特に女性、子供、色々な悩み

で苦しんでいる人を助けようとしていきます。特に、移民、難民、信仰のために迫害されている人々、戦争で被災されている人々を。パバ様はこうした問題に全力を傾け、先進国のリーダーたちに早くこの問題を終わらせるように呼びかけています。教皇フランシスコには、イエス様のように、喜ぶ人と共に喜ぶ、泣く人と共に泣くという姿勢が見られるのではないのでしょうか。

わたしも教皇フランシスコのような司祭になりたい。しかし、教皇になりたいわけではありません。今助祭として福音宣教しながら、皆と一緒に祈り、分かち合い、遊ぶことを大切にしたいです。もちろん、福音宣教というのは宣教師、司祭、修道者に限らず、洗礼を受けている全ての神の民も同じ使命があります。キリストを信じているわたしたちは、これからも自分ができる状況の中で福音宣教ができるようお互いに祈りましょう。

祈り

運営委員 一村 弘行

ジャン＝フランソワ・ミレー作の「晩鐘」は、フランスのパリにあるオルセー美術館にあります。この絵は、バルビゾン派のジャガイモ畑で農作業をする貧しい夫婦が、教

会から聞こえる夕刻の「アンジェラスの鐘」に合わせて祈りを捧げているところを描いています。アンジェラスの鐘は、教会で朝・昼・晩の一日三回打ち鳴らされます。日本

では、長崎市の浦上天主堂にある「アンジェラスの鐘」が有名ですね。「アンジェラスの鐘」を聞いた信徒達は、胸の前で手を組み、目を閉じて聖母マリアに「アヴェ・マリアの祈り」を捧げます。この絵は敬虔な祈る姿を象徴している絵として有名ですね。

ところで、私達キリスト者は、ミサの時だけでなく日常的によく「祈りましょう」と言います。それは、日々の生活の中で「祈ることの大切さ」と「祈りの恵み」を経験上よく知っており、日頃から実感しているからですね。祈るといふ行為は信仰の基本だと思えます。祈らずして「信仰」は考えられないですね。洗礼を受けてキリスト者になって、ますます感じたことが祈りの大切さです。一心に祈っていると必ずや応えられるのです。

私は、朝晩日課としている「主の祈り」や「アヴェ・マリアの祈り」などの他、通勤時に「ロザリオの祈り」を唱え、その他に仕事の前後の「はじめの祈り・終わりの祈り」など、一日に度あるごとにお祈りをしています。祈りに効果があり成就することを実感しています。もちろんすべての祈りが成就するわけではありません。でも、不思議なことに、どういふわけか

願いがかなうのです。洗礼を受けるまで、剣道や居合道をやっていた関係で家に神棚を置き、約三十年間も神道を信仰していましたが、まったく感じさせないことでした。

お祈りは、最も重要な「主の祈り」をはじめ、「アヴェ・マリアの祈り」など、数え切れないほど多くの祈りがあります。どの祈りも「お祈り集」などにある定型の祈り文がありますが、自分独自の祈りの言葉を持っていたいと思います。「お祈り集」を見ながら、または祈り文を暗記してお祈りするのもいいのですが、神様の前で素直な心でお祈りするという、言葉を飾らない自然なお祈りができれば最高です。謙虚に慎ましく、そして誠実という姿勢も大切ですね。

共同墓地委員会について

委員長 小溝 茂雄

カトリック町田教会府中共同墓地は2000年に設営され現在にいたっています。数年前に申込数がほぼ収容数に達したため、申込みの受付を停止しておりました。また、管理運営についての明確な規約や組織がなく、かねてからその整備が懸案となっていました。そのため、一昨年度から小池神父様や佐藤毅さ

多摩南宣教協力体

7月3日(日)司祭巡回司式が行われ
小池神父が成城教会で、山本神父が町田教会でミサを司式された。
これを機に、多摩南宣教協力体とは？

☆宣教の活性化
mission(英)
missio(ラテン語)=派遣

東京大司教 岡田武夫
平和を実現する人は幸い...

「福音が見えにくい」
救いの渇き
若者 人生をかけようと思えない!!
消費主義 物欲 膨大は情報

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたとともにいる」(マタイ・28:20)

「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを信じなさい。わたしは世に勝っている」(ヨハネ・16:33)

「わたしは父のもとに行くことができない」(ヨハネ14-6) ...と仰せになた主キリストを信頼し祈りましょう

「司祭巡回司式」が始まる
2007年9月

2003年4月スタート

多摩南宣教協力体
(成城教会・町田教会)

東京教区内のすべての教会は22に分かれ協力的に活動!

1年ごとに企画運営を担当

「司祭巡回司式」が始まる
2007年9月

2003年4月スタート

多摩南宣教協力体
(成城教会・町田教会)

東京教区内のすべての教会は22に分かれ協力的に活動!

1年ごとに企画運営を担当

★将来各教会に主任司祭が常駐できなくなるかも!
★近隣の教会が協力、交流を高めるため
★司祭巡回ミサ、合同墓参、活動企画など
親交目的、話し合い...

ん(2015年9月帰天)を中心に検討を進め、管理運営を明確にしていくべく、「共同墓地委員会」の設置を昨年の信者総会に提案し、承認を受けました。これにより「カトリック町田教会共同墓地委員会」が組織され、新たに「カトリック町田教会府中共同墓地使用管理規定」を制定して、共同墓地委員会による管理・運営が開始されました。これまでの共同墓地への埋葬形態は、①お一人ごとの共同納骨(永代)、②7年目の命日まで納骨室に安置し、その後散骨(7年散骨)、③埋葬時に散骨、の三形態がありました。新しい管理規定では埋葬形態を①に一本化し、ただし、永代ではなく、「所定の安置数に達したら順次散骨」としました。このため、既に申込みをされている方々にも新しい「カトリック町田教会府中共同墓地使用管理規定」に同意してもらう必要があります、そのための説明会を昨年6月に開催して「共同墓地使用の再申請」をお願いしました。再申請の受理作業もほぼ完了し、9月から新規の受け付けを開始しております。

また共同墓地委員会としては、新しい管理規定に則って共同墓地を管理していくべく、納骨室の骨壺の再配列を沼尾

石材店様の協力を得て検討を進めてきましたが、ほぼその概要がまとまり、今秋にこの再配列作業を、散骨に合わせ行う予定です。

なお、昨年の管理規定の制定にあたってご案内しましたように、2017年4月1日から共同墓地の使用料が現行の12万円から15万円に改訂されます。使用を希望されている方は、早めにお申し込みください。

詳しいことは共同墓地委員にまでお問い合わせください。



熊本地震と東北

町田教会被災地支援センター
事務局 立木 欣吾

4月14日の夜、熊本県を震源とする最大震度7の強い地震と、16日未明に熊本県と大分県で最大震度6強の地震が発生して大きな被害があったことは記憶に新しいところです。メディアではあまり報道されていないようですが、湯布院や別府など大分県の一部でも大きな被害があったことは忘れてはならない事実です。被災地ではまだ余震が続き、多くの方が不自由な生活を強いられて、不安な日々を過ごされています。

皆様の安全と被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

多くの方が、東日本大震災が起きてまだ5年、十分な復旧もままならないのに、今度九州で？と驚かれたことは想像に難くありません。

その後町田教会で、多くの皆様が差し出してくださった熊本地震への義援金は、速やかに福岡司教区に送らせていただきました。

今回の地震で、九州で被災された方はもちろん心配ですが、東北の被災地の方にはどのように映っているのか気にかかりました。東北の被災

特別寄稿

私の福島

吉祥寺教会主任司祭 後藤 文雄

「NPO福島の野菜畑」の人たちが、毎月二回か三回、教会の庭に店を出してくださる。安全地帯の農家から集荷する作業が何日もあり、それをトラックに積みこんで深夜東京に向けて出発するだけでも重労働である。

これが彼等の原発による風評被害に対する挑戦なのである。県の検査で安全と保証されても買ってもらえない農家を支援するため、都内の教会の協力を得て、その庭で野菜を売ることにこのNPOの人たちは尽力している。

「教会の中でこんなものを売っているのですか」

危険を感じる人は買わないでください、としか言いようがない。

先日、福島で津波、地震、原発で苦しむ方々に会うために行った。以前の二回はただ車で通りすぎるだけだった。

福島のトリプルパンチを受けた方たちは緑の擬似砂漠の中でどうやって生きてゆかれるのか、ただ茫然自失するのみだった。

特に原発近くの請戸小学校の廃墟は無残であった。原発誘致の理由で建てられた超近代的な鉄筋コンクリートの校舎は巨大な骸でしかなかった。助かったものの、児童たちの心に切り刻まれたトラウマは、何十年と、死ぬまで続くだろう。

(この部分は空欄です)

状況についてメディアの露出量が減っていく中、避難者の数は震災直後からは減っているものの、まだ10万人を超える方が避難生活を余儀なくされています。自分たちのことで精一杯で、他の県の被災状況にまで気を配る余裕などないだろうと思えました。

しかし、熊本地震から間もなくこんなニュースが伝えられました。全国の都道府県から熊本に支援物資が運ばれていきましたが、東北の各県からもトラックで支援物資が運ばれたというニュースです。岩手からも宮城からも福島からも。5年前の被災の経験があるからこそ、熊本地震での被災者の欲しいものや必要なものがわかって、きめの細かい品物が送られたそうです。

また、中高校生が街頭に立って募金活動を行っていた話も流れています。まだ完全に復興したわけではないけれど、ここまで復興したご恩返しをしたい、と募金活動をしているとのことでした。東北の人たちの優しい人柄に温かいものを感じました。

これから厳しい暑さ、加えて熊本地震の被災地の方々にとっては、台風や豪雨が来る季節にもなります。これ以上被害が拡大しないように願ってやみません。



ヨゼフ会 一泊静修会（6月18～19日）

犠牲献金

中高生会

5月1日 5,583円

(ペロニカ苑へ)

6月12日 9,712円

(ペロニカ苑へ)

7月3日 2,881円

(ペロニカ苑へ)

* 4月は募金活動が行えませんでした。

編集部より

☆一面の口絵は遠山悦子、池永廣美、大久保豊の皆さんに交替をお願いしています。また掲載写真の多くは、坂井剛さんからCD化の上提供されたものを使用しています。

☆次号の編集会議予定

2016年8月21日09時30分

信 者 動 静

2016年4月～7月

(個人情報のため、削除しています)